
トモダチ

TAKA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トモダチ

【Nコード】

N07530

【作者名】

TAKA

【あらすじ】

ある日なにげなく携帯を開くと自殺したはずのクラスメイトからメールが・・・！そこに添付されてる動画から物語が始まります。続編「シンユウ」もお楽しみに！

雨が降る暗い日の今……。
どうでもいい……。
どうでもいい人の葬式……。
早く終わらないかな……。

いつもどおり朝に起きる。

今日も何も変わらぬ一日が始まる。

「おはよー」

友達からのいつもどりのあいさつ。

おはようと私もあいさつを返す……。

「昨日の葬式の子、中1の頃にいじめられて学校来なくなったんだ
つて。」

「それで中3で自殺ねえ……。」

「ま、どうでもいいけど……。」

「あ、そういや昨日のテレビにさあ、」
人が死んだにも関わらず数回の会話でち違う話題へと移り変わる……。

そんな周りに疑問を抱かずにいる私も同じ……。

その日もいつもの会話をしながら友達と家まで帰りなにげなく私は
ケータイを開く……。

「メール2件か……。」

一件目は親友のカナからだった。

「カナったらまたこんなメールして……。」「
なにげないメールに返信をする。」

そしてまたメールが届く。

「あ、そういえばもう一件あったんだった。」

kayamaeika@xxx

「誰？こんなメアド知らない……。」

栢山英香……どこかで聞いた名前だ……。

「不気味……開かないでおこう……。」

「カナのメール返信しようかな。」

「あ……。」

カナのメールを読み返す……。

「ねえ最近学校で噂になってるんだけどこないだ自殺した栢山英香

って子からメールがくるらしいよ。」

正直ほつとしていた。

「なんだカナの悪ふざけのメールかこれは。」

気づかないフリをしてカナに返信した。

「そのメールを見たらどうなるの？」

「返信つと……。」

せつかくカナが作ったんだし見ないと悪いかな……。

好奇心でメールを開く。

「動画が添付されてる……。」

どうせ急に叫んでびっくりさせる動画だろう……。

わかっけていても気になってしまう。

「再生しようかな……。」

そのときカナから返信が来た。

「そのメールには動画が添付されていてその動画をみた人は行方不明になるんだつて。」

そのメールを読んでわかった。

「カナこの動画見て欲しいんだ……。」

つい最近死んだ人を冗談に使うのはどうかと思ったが面白そうと感じていた。

「再生つと……。」

動画が流れ始めた……。ここは教室……？

「おいクソ栢山！！」

柄の悪い女子生徒が大人しそうな女の子の髪を掴んで引つ張る。

「よく出来てるな……。カナがつくつたのかな……。？」

私は動画を再生し続けた……。

「もうやめてよ！！」

大人しそうな女の子が柄の悪い女子生徒の手を振りほどく。

「……。は？」

柄の悪い女子生徒はキレた様子で電話を掛け始めた。

しばらくして5人の男子生徒が来た。

「こいつ犯してやって。」

柄の悪い女子生徒が男子生徒に言う。

男の子がクライになりそうなくらいひどい事が続いていく……。

「ひどい……。」「

カナに返信する……。

「あの動画何……。？」

カナに返信した後私はさっきの動画の続きを再生する……。

10分程度たつてやっと男子生徒たちは帰っていった……。

そして柄の悪い女子生徒は言った。

「あんたがずっと一人にいるから友達になってあげるって言ったの

にさあ」

大人しそうな子は下を向いて小声で言う。

「お金……。を……。」「

柄の悪い女子生徒は大人しそうな子の胸ぐらを掴んで言った。

「なんだって？聞こえねえよ！！」

大人しそうな女の子は拳を握り締め大声で言う。

「友達になるっていつてお金を取っただけじゃない！！」

柄の悪い女子生徒は少し驚いた後冷酷にため息をつく……。

「うつぜえ……。」「

さらに柄の悪い女子生徒は続ける。

「あんたさあ死んでくれない？」

大人しそうな女の子は聞き間違えたのかと思いききなおす。

「え？いま何を・・・？」

柄の悪い女子生徒は躊躇せずに軽々しく言った。

「死ねって言うてんの。」

大人しそうな女の子はショックを受けた様子で言った。

「ひどい・・・。そんなこと本気で・・・」

柄の悪い女子生徒は続けた。

「本気だから。死ななかつたらさっきの時とつた写真バラすよ？」

大人しそうな女の子はとうとう泣きながら言った。

「あなたはお金为目的で私に話しかけたかもしれないけど私はあなたに話しかけられて・・・。」

「あなたに話しかけられてうれしかったのに！！」

「初めて友達になれると思ったのに！！」

柄の悪い女子生徒は冷たく言った。

「どうでもいい。早く死んで。」

ここで動画は終わった・・・。

これはカナが作ったものではなく本物・・・？

「なんて酷い・・・。」

私は泣いていた・・・。

しばらくすると、とまっていたはずの動画から音が聞こえて来た・・・。

寂しいよ・・・寂しいよ・・・。

・・・私は不思議と驚かなかった。

「栢山さん・・・？」

寂しいよ・・・寂しいよ・・・。

ただそれだけを繰り返す・・・。

彼女に寂しい思いをさせたくない。そう思い言った。

「友達」と一緒に出かけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0753o/>

トモダチ

2010年10月15日04時51分発行